

## 御庵遺跡 第42地点

遺跡名	御庵遺跡
よみがな	ごあんいせき
調査地点	第42地点
主な時代	縄文時代前期（約5500年前）、縄文時代中期（約4500年前）
調査地	富士見市鶴馬2丁目3065-5
調査面積	1107.45 m <sup>2</sup>
調査期間	平成30年4月27日～5月14日
調査内容	<p>【確認された主な遺構】 縄文時代の竪穴住居跡3軒、集石2基</p> <p>【出土した主な遺物】 縄文土器</p> <p>【概要】</p> <p>御庵遺跡は、東側に富士見江川、北側に権平川を臨んだ武蔵野台地縁辺部に立地しています。</p> <p>これまでの調査により、縄文時代早期から中期を中心とした集落跡であることが明らかとなっています。特に縄文時代前期では、竪穴住居跡13軒が検出されており、当時の人々にとって住みやすい環境であったことが伺えます。</p> <p>今回の調査では、縄文時代前期の竪穴住居跡1軒、中期の竪穴住居跡2軒、中期の集石2基が確認されました。前期の竪穴住居跡は、支柱穴が8本の大型の住居跡で、覆土内からは胎土に植物繊維が混ぜられた土器が出土しています。</p> <p>また、中期の集石からは、赤く焼けた礫が多量に出土しました。</p>



縄文時代前期の竪穴住居跡



縄文時代中期の集石



縄文時代中期の竪穴住居跡



住居跡内で確認された炉跡